

オンライン方式等のメリット・デメリット

	Web会議	テレビ会議（※）	映像教材（DVD教材）	eラーニング
メリット	<ul style="list-style-type: none"> （必要な機材と通信環境が整備されれば）全国どこからでも参加が容易 ・移動の時間とコストの節約 ・双方向でのやりとりが比較的容易 ・（ブレイクアウト機能を使えば）グループに分けた討議等にも対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の時間とコストの節約 ・双方向のやりとりは可能 	<ul style="list-style-type: none"> （個別に視聴させる場合には）いつでも視聴が可能（時間的自由度が高い） ・移動の時間とコストの節約 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも受講が可能（時間的自由度が高い） ・移動の時間とコストの節約
		<ul style="list-style-type: none"> ・既存の機器を活用することで初期投資が不要 	<ul style="list-style-type: none"> （個別に視聴させる場合には）何度も視聴することで理解度が高まることが期待できる ・一度作成した教材は、内容に変更がない限り繰り返し利用可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースや達成度に応じて自由に学習を進めることができる ・一度制作した教材は、内容に変更がない限り繰り返し利用可能 ・教材の印刷代、送料等のコストが掛からない ・必ずしも講師を必要としない
			<ul style="list-style-type: none"> ・一定の講義の質を保つことができ、全国均一な研修内容の提供が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習管理システム（LMS）により、研修員の進捗状況、成績等の管理やテスト結果などのフィードバックが即座に確認できる
		<ul style="list-style-type: none"> ・通信環境が比較的安定している 		
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> （参考方式に比べ）研修員同士の横のつながりが作りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 研修員同士の横のつながりが作りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 研修員同士の横のつながりができない 	<ul style="list-style-type: none"> 研修員同士の横のつながりができない
	<ul style="list-style-type: none"> ・実習型（ロールプレイ等）の研修に不向き 	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向のやりとりはできるものの、多数のグループに分けることができず、グループのメンバー数が多くなりディスカッションが難しい ・実習型（ロールプレイ等）や討議型の研修に不向き 	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向のやりとり（質疑応答やディスカッション）ができない ・実習型（ロールプレイ等）や討議型の研修に対応できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向のやりとり（質疑応答やディスカッション）ができない ・実習型（ロールプレイ等）や討議型の研修に対応できない
	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な機材調達のための初期費用を要する 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ会議システム未整備府からの参加が難しい（整備府への移動コスト等が生ずる） 	<ul style="list-style-type: none"> （個別に視聴させる場合には）受講ベース等が研修員の自主性に委ねられるため、モチベーションや集中力を維持するのが難しい ・教材制作及び送付のコストが掛かる ・一度作成した教材の更新が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講ベース等が研修員の自主性に委ねられるため、モチベーションや集中力を維持するのが難しい ・教材を制作する手間やコストが掛かる ・学習履歴や教材を配信・管理するための学習管理システム（LMS）が必要（そのためのコストが掛かる）
	<ul style="list-style-type: none"> ・各庁での会場の確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・各庁での会場の確保が必要 ・多地点接続の予約が困難（事件処理が優先） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの通信環境の影響を受けやすい 			

※現在裁判所に整備されている現況を前提